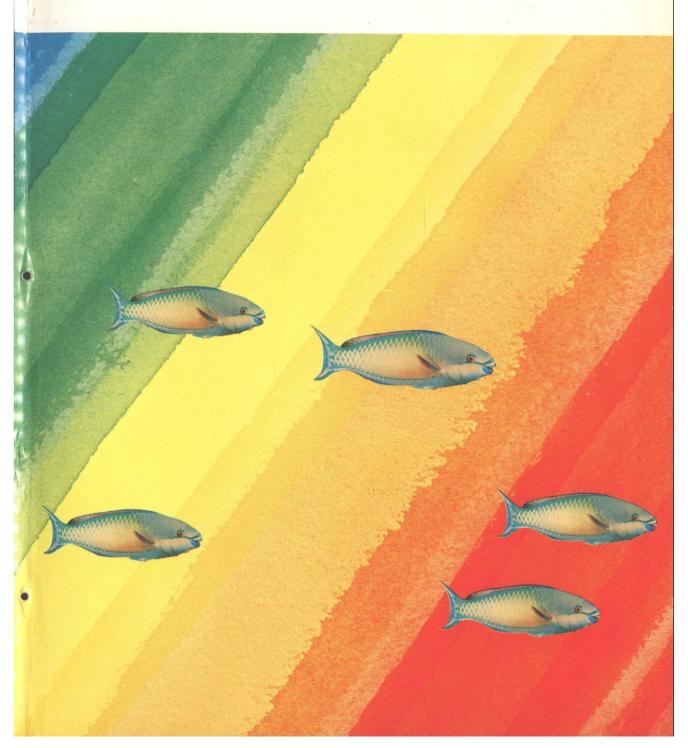
San-ai

三愛会会誌 No. 57 168-8 特集: 自己表現



九州横断道路

●別府から長崎まで





▲ 別府海岸,むこうの山が猿で有名な高崎山



▲ 放牧馬もきました出る山なみハイウェイ

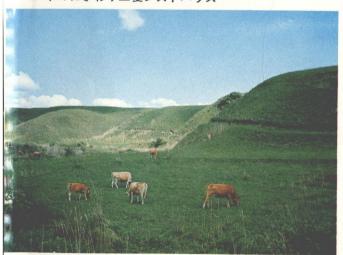




✓ ハイウェイの 最高所, 牧戸峠から 三俣山をのぞむ



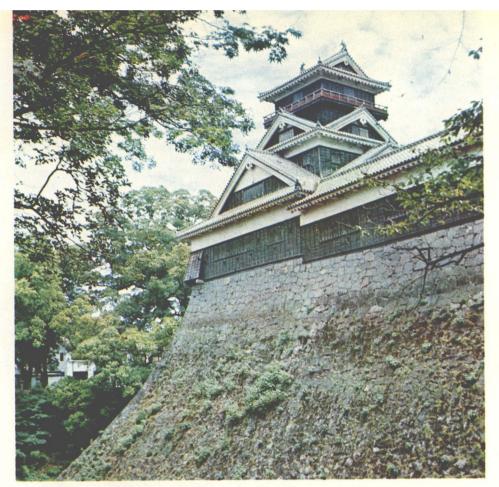
▲ 車のにぎわう三愛レストハウス



▲ 瀬ノ本高原に 遊ぶ肥後の赤牛

阿蘇外輪山から ▶ 見おろせる広大 な千枚田 (遠くは阿蘇五岳)





▲ 国宝の熊本城宇土やぐら



▲ アベックも遊ぶ水前寺公園(熊本市内)



▲ 長崎の街を走るリコーカラーの電車

ルボ

九州横断道路をゆく

九州横断道路は、別府にはじまる。阿蘇国立公園のやまなみを横断して熊本に至る135キロ、さらに三角からフェリーボートで有明海をわたり、島原をへて雲仙国立公園をとおり、長崎に至る300キロの観光と産業の大動脈である。なかでも別府〜熊本間の別府阿蘇道路、通称『やまなみハイウエイ』は景勝も雄大、所要時間もバスで4時間15分と手頃である。

別府から速見火山群へ

東の熱海と並び称される温泉都市別府は、遠く元禄7年、貝原益軒の豊国紀行に、湯量の豊富さと清らかさを記されている。鉄筋のホテル、旅館の林立する現在も、街並みを少しはずれると道路のすぐ側に、勢よく噴きだす湯煙りがそこかしこに見られる。また、血の池地獄、海地獄、坊主地獄といった大自然の神秘性をとどめたものの数も多い。野猿の餌付の草分け高崎山は、さすが元祖だけあって、その数1,200匹。そこに繰りひろげられる野猿の生態は下手なドラマよりも面白い。親切な市の係員の説明を聞いていると時間のたつのを忘れる。

国道10号線から横断道路に入る。鶴見岳(1,374米)の山麓を右に左に大きなカーブを切る。どうやら登りきったと思う左側に小さなパーキング・

エリアがある。眼下はるかに広がる別府の市街,緑のスロープに噴きあげる湯煙り,静かな青い海が美しい。遠くかすむ四国の山々,かたわらに,「見返り峠」の標識があった。しばらく進むと右手に鶴見岳ロープウエイの駅,急傾斜の山腹を一直線にロープがはしっている。木立の中に点々と散らばるロッヂ,城島高原が続く。続いて右手に由布岳(1,583米)が迫る。別名豊後富士ともいうが,道路からの眺めは裾野の広がりに富士の姿を想像させるだけ。由布岳の山麓を大きく廻ったところで急に展望が開けてくる。ここが狭霧台(海抜800米),下に見える小さな盆地が由布院盆地,大昔の火口湖が干上って出来た湖底盆地で周辺いたる所に温泉が湧いている。

九州の屋根九重山系

由布院の温泉街を通り抜けると道はまた上りとなる。右に左に整然と並んだ杉の木の林が続く、九州電力が電柱用にと植林した名残りである。水分峠で右に国道 210 号線がわかれる。とたんにトラックの姿が消え、車の数もめっきり少なくなる。ペーパードライバーがハンドルの誘惑にとりつかれるところである。ここから有料53キロのハイウエイに入ったわけであるが、車の少なくなった以外道路自体には何の変化もみられない。少し



三愛レストハウスの売店で愉しい買物

退屈しかかった頃左手に湖が見える。小田の池である。岸辺に放牧の黒い牛が遊んでいる。すぐ隣りにもう一つの湖が見える。山下池である。湖畔には九重レークサイドホテルが白くそびえ、まわりの緑と調和し、落着いたたたずまいをみせる。

小さな起伏が終ると広々とした展望が開ける。 飯田高原である。海抜800米のこの高原には入植 者の15年間の努力によって開かれた水田もある。 ここまで黒1色だった牛に茶色のものがまじり始める。やがて前方に九州アルプスと呼ばれる九九里 連峰がたちはだかってくる。九州第一の高峰久住 山(1,788米)を含み,九州に20峰しかない1,700米 以上の高峰を12も集め,雄大な山岳美を誇っている。ここらあたりからホテルと白い湯煙り,温泉の標識がやたらと目につく。九重温泉郷の一群である。登りきったところが,海抜1,300米の牧ノ戸峠,この道路の最も高いところである。ただよう冷気が思わず上着をまとわせるところでもある。

万緑叢中紅一点

ほどなく緑の大草原が見下ろせる。瀬の本高原である。遠く阿蘇5岳を望む景観は日本にいることを忘れさせる。中国は宋の時代,王安石の「石榴の詩」に有名な

万緑叢中に紅一点あり

人を動かす春色は須らく多かるべからずという句があるが、その紅一点が「三愛レストハウス」である。バスガールが「あの赤い屋根は銀座三愛のレストハウスでございます」と説明する。「赤い屋根」と「銀座三愛」がここのトレードマーク。急なカーブを一気に下って、県道との交差点、料金徴収所のすぐ右が「三愛レストハウス」である。乗用車で1時間半、バスで2時間、別府〜熊本間の丁度真中にあたる。広々とした駐車場、ガソリンスタンドまである。先ずかけ込むのが本館横、別棟のトイレ。中央に有料があるので無料の方はと二の足をふむのが人情。ところが無料も水洗で、その清潔さはホテル並み、きれい過ぎて汚せないのか、清掃の度数が多いのか、いずれにしても責任者の心遣いがしのばれる。

落着いたところで本館へ。1階入口横の小じん まりとしたグリル、落着いた雰囲気の好きな方に ぴったり。6本の巨大な鉄骨と円筒に支えられた 独創的な建築の内部は円形で柱1本ないところが 面白い。先づ3階にかけ上る。ここは予約席でか なりゆったりとしたレイアウト。片隅にカバーの かかった2脚の椅子がある。ウエイトレスにたず ねると, 天皇, 皇后両陛下がご使用になったもの と答え、親切にカバーをとって見せてくれる。テ ラスに出ると左手が1,423米の猟師岳の急峻、前 方は果てしなく広がる緑のうねり、右手に阿蘇5 岳,初夏の強い日差しが肌に心地よい。2階の大 食堂に修学旅行の高校生800名が並んでいたが、 3階から見下ろすと壮観の一語。それでもまだ 200 席の余裕はある。 2 階の傑作はおでんコーナ ーとそばコーナー、赤提燈がしたしみを増す。阿 蘇 5 岳を正面にのぞむ 200 席のパラソルガーデン は盛夏向き。海抜960米のこの地は平地より6~ 10度は涼しく、どんな暑い日でも、日蔭で25度を こえることはないという。

レストハウスの人たち

食事がすむと散歩、日光浴もよいが、人気の的

はゲームコーナー。今年4月27日に新設されただけに38台の機械も新しい。団体が入ると45坪のコーナーは動きがとれない。橋本主任を含んだ3名で、機械の保守から両替までやるが、休日を交替でとるので2人のことも多い。「機械がすべて自動化されているので、人手もかからず成績も良好、至急施設を倍増してもらいたい。課題はお客様にあきられないよう償却状況をみながら新しい機械と入れ替えること」と橋本主任は極めて積極的。

出発前に忘れてならないのがお土産。 2階の民



にぎわうレストハウス大食堂

芸品等の特選コーナーは、じっくり選んで、贈っ た人から「いいセンスだわ」とほめられるところ。 1階にも民芸品から九州銘果まで揃っているが, こちらは手当り次第数を揃えるところ。特に階段 横の三愛人形コーナーは陳列,売れ行 きとも 抜 群。「ここで売る品物については徹底的に吟味し た上、量も多くしてもらっている。それだけに仕 入価格が高く,利益率は低いが数でこなす。お客 様に喜こんでいただかなくては」と江藤課長。念 のため別のところで較べてみると、確かに一廻り 大きい。余りかさばらないものをここで揃えてお くのが、いいものを安く買う秘訣。1階の売店が 大混雑をていするのが12時から1時半まで。この 時間は事務所は交換嬢1人を残して, 庶務の坂田 係長も、経理の井係長も、売店の応援にかけつけ る。5月の昼食予約が18,000名, これにフリーの お客を加えた分の料理は田中調理長以下15名の調

理部員の腕の振いどころ。

スタート前にガスとオイルの点検を忘れると、とんだことになる。どちらに向っても20キロはスタンドにおめにかかれない。「九州ナンバーに続いて多いのは広島ナンバー、昨日は北海道ナンバーがきた。一番欲しいのは修理施設と豊富な部品。お客様に快適なドライブを楽しんでもらいたい」と意欲をみせるのが3級整備士の資格をもつ浅田係長と運転歴15年の体験をもった穴井主任。雪が降るとチェーンを積んで男は全員セールスへ。人助けと利益の追求がびたり一致のシーン。というのも12月から2月は観光客は激減、これをカバーしようという意欲のあらわれでもある。さらに今年のオフシーズンは全員で人形造りをやろうというのが工藤支配人の計画。

心暖まるサービス

ここの人たちの親切さは多くの人に 感 動 をよ ぶ。旭硝子(株)の秘書課伊藤次郎様からの礼状も その1つ。4月24日に元社長、元常務といった大 先輩の方々と立寄られた時、予約席からの展望が 阿蘇5岳の方を向いていなかった。食事しながら 寝釈迦(5岳が丁度お釈迦様の寝姿に似ている) をゆっくり鑑賞するため、席の移転を申し出られ たところ、それを受けた井野キミョさんが非常に 気持よく、しかも心暖まるサービスを続け、皆様 も非常に喜こばれ、ぜひ心付けを渡してくれとい うことになった。固く辞退するのを強引に手渡し たところ、下の売店でお土産を買い、逆にそれを 持たせられることになった。こんな感動的なサー ビス振りは、最近では他に例をみないものである から、幹部の方にぜひ知っておいてもらいたいと いう主旨と記念撮影のカラー写真が同封されたも のであった。河合常務から見せていただいた時, 心暖まる思いがした。

この心はいつ、どうやって培かわれるのであろうか。接遇の基本方針の根底に三愛主義の *人を愛する思想、があるのは確かである。毎朝の朝礼、

その他機会ある毎に、感謝の念をもち、正確に、 早く、親切に、皆が協力してお客様に満足してい ただこうという基本方針をいろいろな角度から教 育されてはいる。しかし、そうしたことはどこで も熱心にやっている。ここに働く人たちは地元、 南小国村, 小国町, 一宮町, 久住町の出身である。 純朴さの失われない素質のせいか。黒川温泉のは ずれにある寮を訪れた時、一つの秘密をつかん だ。寮は鉄筋2階建,河合常務,工藤支配人をは じめ総員66名中の30名が協同生活を営んでいる。 地元の人を集めながら寮生活, それほど交通機関 の便の悪い、逆に言うと大自然の真只中にあると いうことでもある。寮での娯楽といえば、チャン ネルの少ないテレビ、ステレオ、卓球台。全員同 じ物を食べ、同じように不便な生活に耐えるとこ ろから生じる一体感。なかでも河合常務の部屋 は、1階北隅の厨房裏、一年中日の当ることのな い部屋である。乏しい中の少しでもよいところは 部下に与え, 最後のものを自分の生活にあてると いう心。この暖かさ、崇高さが人の心に浸透する のであろう。

開店後2年6ヶ月,自動車通行台数は殆んど増えていないのに業績は順調に伸び,特に昨年後半からの伸びは著るしい。「全従業員の努力がお客様に通ずるようになったことと斡旋業者,特に日本交通公社,近畿日本ツーリスト,東急観光,名鉄観光サービス,株式会社日本旅行,福岡KCC,西部日本観光の7社のご協力の賜物」と工藤支配人は語る。

九州へ行こう

三愛レストハウスを後に阿蘇に向う。左右のなだらかな丘に遊ぶ牛の色が全部茶色となる。「肥後の赤牛、豊後の黒牛」の言葉通りである。やがて阿蘇外輪山の頂上、城山に達する。右隣りの大観峰(936米)と並び称される景勝の地である。東西18キロ、南北24キロ、世界一大規模な火口原をもつ阿蘇外輪山の内壁が延々と続く。正面に噴煙



到着した修学旅行の生徒たち

をあげる阿蘇5岳は火口原の中に新たに噴起したものといわれる。限下に広がる火口原は海抜500米, 学校田といわれる水田が光る。豊肥本線阿蘇駅から左に阿蘇登山道路が始まる。 *やまなみハイウエイ。を走る観光客のすべてが左折する。すでに国道57号線に入り、急にトラックがふえる。

外輪山をあとにのどかな田園風景の中を熊本に向う。間もなく左右に杉の並木が現われる。加藤清正が植えさせたという清正公道の名残りである。走行1時間半、南九州第1の都会熊本に到着。加藤清正築城の名城、熊本城と細川家3代80年かかって造園した水前寺公園が熊本の2大名所である。

九州には阿蘇国立公園のほか雲仙 天 草 国 立公園、霧島屋久国立公園、西海国立公園、瀬戸内海国立公園、玄海国定公園、耶馬・日田・英彦山国定公園、祖母傾国定公園、日南海岸国定公園、と観光資源は極めて豊富である。折柄のレジャーブームで本州からの入込客数も41年度には615万人に達している。リコー三愛グループ関係各社の皆さんの中でも、新婚旅行、観光旅行で「三愛レストハウス」を訪れる人の数が目立つようになったそうである。「これまでもグループ各社の皆さんにあえるのは大変な喜ってです。ぜひお立寄り下さると共に、必らずお名前をおつしゃっていただきたい。歓待します」と工藤支配人は張切っている。